

時代を 読む

渡辺 利夫



先だってまで東アジア共同外交ベクトルを東アジアに向かわせ、そうして日米離間と日米同盟の「空洞化」を図る

体へは関心を急速に薄め、みずからはASEANとの包括的連携協定にもとづく独自の経済統合戦略へと転じた。皮肉なことに新たに生まれた鳩山政権が、沈静化していた東アジア共同体に火を点け、これを積極的に提唱し始めたのである。最も熱心な主唱者が

「東アジア共同体」の危うさ

ASEAN(東南アジア諸国連合)プラス3(日中韓)である。中国が主導権を握り得るのは、ここだと考えたからであろう。

と考えているのであろう。

しかし、中国の意図を敏感に読み取った自民党政権は、中国の戦略的意図を希釈するために、インド、オーストラリア、ニュージールランドを参

らぬはずもないが、それらに対する氏の認識は「地域的統合を阻害している問題は、じつは地域的統合の度合いを進めるなかでしか解決しないと逆説に立っている。たとえば地域の統合が領土問題を風化させるのはEUの経験で明らかなどころだ」というものである(『Voice』二〇〇九年九月号)。

中国が東アジアにおいて主導権を確保するためには、もう一つの大国である日本を影響下におく必要がある。最大の障害が日米同盟である。中国はみずからの主導によって東アジア共同体を創出し、これに日本を招き入れて日本の

に読み取った自民党政権は、中国の戦略的意図を希釈するために、インド、オーストラリア、ニュージールランドを参

加させるべく活発な外交を展開した。日本の意向は、中国主導の共同体が成立すればA

東アジア共同体とは、日本をして「離米・親中」の方向に向かわしめる構想とならざるを得まい。鳩山氏も日中間に厄介な問題があることを知らぬはずもないが、それらに対する氏の認識は「地域的統合を阻害している問題は、じつは地域的統合の度合いを進めるなかでしか解決しないと逆説に立っている。たとえば地域の統合が領土問題を風化させるのはEUの経験で明らかなどころだ」というものである(『Voice』二〇〇九年九月号)。

と考えているのであろう。しかし、中国の意図を敏感に読み取った自民党政権は、中国の戦略的意図を希釈するために、インド、オーストラリア、ニュージールランドを参

加させるべく活発な外交を展開した。日本の意向は、中国主導の共同体が成立すればA

以来、中国は東アジア共同

鳩山由紀夫首相と岡田克也外相であってみれば、この構想は圧倒的な政治勢力となった民主党政権であるのはもとより、日本の新たな方針となつてしまいかねない。日本の将来に禍根を残すことにならな

れに日本を招き入れて日本の

以来、中国は東アジア共同

鳩山氏や岡田氏の発言を追

は、二十年以上にわたり国防費伸び率二桁の軍拡を続ける中国を前に、このような「理想主義」はいかにも度が過ぎてはいまいか。(拓殖大学学長)